

本徳寺故世話役 播州真宗門徒

追弔法要案内

九月六日午後一時

於亀山本徳寺



追弔法要に思う

この世の現実、あまりにもはかなく、そして
厳しいものです。一時の喜びは、やがて次の苦し
みへとつながっていきます。若く健やかな体でい
られる時間は短く、「老い・病・死」は、実は生
まれたときからすでに始まっているのです。

私たちは自分自身のいのちを生きていますが、
そのいのちがどこから来て、どこへ向かうのかに
ついては、まったく分かっていません。

思いがけない出来事はいつ起こるか分からず、
だからこそ、私たちは心の底から安心できる場所

を知らないのです。揺れ動く心のままに右往左往
しながら、最後には誰もが老い、病み、死という
行き止まりを迎え、ただ骨となっていくます。仏
教では、この根本的な原因を「無明（むみょう）」
と呼びます。

これまで、数えきれないほど多くのご先祖や先
達が、信心の智慧をいただき、この厳しい無明―
―生・老・病・死のすべて―を貫いて働く仏さ
まのいのちに目覚めてこられました。

「先に往く者は後の者を導き、後に残る者は先に
往った者を弔う」――このように、絶えることな
く受け継がれてきた仏さまの智慧が、私を通して、
浄土真宗の追弔会をかたちづくってきたのです。

